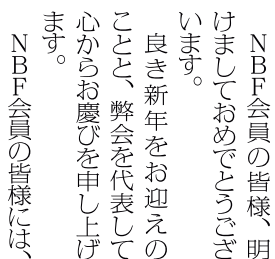


公益社団法人
日本ボウリング場協会
会長 武田 竜



また、白石理事長をはじめとする役員・会員皆様方の、常日頃のご努力に對しまして、改めまして敬意を表するものでございます。

さて、昨年来、政治的にも経済的にも不安定な時代が続いておりますが、ボウリング場には、活気と笑顔が戻ってきたと実感する今日この頃です。

しかし、業界全体を見ると、相変わらず厳しい状況が続いており、全国のボウリング場数は、昨年と一昨年の二年間で六十六のボウリング場が減少してしまいました。

折に触れ何度も申し上げておりますが、ボウリングは、老若男女問わず、世界中の人々に愛され続けられている素晴らしいスポーツであります。

白石理事長のもと、明るく楽しいボウリングをスローガンに掲げられ

精力的に活動を続けておられるNBFボウラーの皆様方のご活躍が、いつの日か必ずや未来のボウリング業界の道を切り拓いていくものと信じております。

以前より申しておりますが、ボウリングの更なる推進と認知度向上のための、メディアへの露出やSNS等を活用した積極的な広報活動や、他業種とのコラボレーション、また、二〇二三年度から段階的に始まった

公立中学校の休日部活動を民間のクラブや指導者へ委ねる「地域移行」など、ボウラーの裾野を広げるため様々な事業に引き続き取り組んで参りたいと思います。

新たなチャレンジで業界を変え、一層の発展前進のため、日本ボウリング機構（JBO）を機能させると同時に積極的に活用し、取り組んで参りましょう。

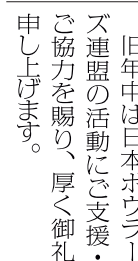
今後是非一緒にボウリングの素晴らしさを日

本中の人々に伝えて
いって頂ければ幸いです。
NBF皆様の引き
続きのご協力をよろ
しくお願い申し上げ
ます。

終わりに、貴連盟の
益々のご発展と、会員
の皆様方のご健康ご活
躍を祈念申し上げ、年
頭のご挨拶とさせてい
たきます。



明けてからおめでとうございます。
皆様の笑顔と接する日を楽しみにしています。



日本ボウラーズ連盟

理事長
白石雅俊

会員の皆様の支部の活動はほぼ例年通りに運営され、本部主催大会の参加人数も戻り、先日の第

2024年は大会の開催月が大きく変わります。2月はオーバー70からスタートし4月にトリオ



ていきたいと思います。

また、すでにスタートしている報告書のオンライン登録を始めとして、新規会員登録や競技会登録もオンライン登録ができるように準備を進めています。



謹賀新年



昨年引き続き今年もよろしくお願いします

日本ボウラーズ連盟

役員一同

理事長 白石雅俊

副理事長
戸田幸一郎

坂田 正祐

横山雄司

専務理事
長坂 貴久

常任理事
山崎 義夫

上山 幸雄

山口 覚

有岡 徳昭

“堂本 金満”

丁川 康行

高橋啓介

日
本
書

事務局

石附和久

上岡 千恵

第51回 全日本ボウリング選手権大会成績

日時：2023年11月18・19日
会場：愛知県／稲沢グランドボウル

順位	氏名	連盟	スコア
◆男子の部 (1人15Gトータルピン)			
優勝	宮澤 國彦	(東京)	3,178
第2位	高橋 浩一	(静岡)	3,097
第3位	早坂 友伸	(宮城)	3,057
第4位	福島 和也	(埼玉)	3,046
第5位	堤 泰三	(大阪)	3,031
H / G	春日 聡	(東京)	299
H / S	早坂 友伸	(宮城)	712
◆女子の部 (1人15Gトータルピン)			
優勝	上地 優子	(沖縄)	3,153
第2位	渡辺 真央	(愛知)	3,131
第3位	鈴木 久美子	(東京)	3,107
第4位	谷口 雅美	(大阪)	3,088
第5位	保木 絵理	(北海道)	3,083
H / G	谷口 美優	(大阪)	290
H / S	吉崎 多美江	(北海道)	713
参加連盟数 40 連盟 参加人数：男子 467 名 / 女子 166 名			

宮澤選手、上地選手が優勝

第51回 全日本ボウリング選手権大会



宮澤 國彦 選手
使用ボール：ブラックアイドル
初日の後半からラインを決めて調整しながら投球したのが功を奏した。30年来の知合いで実力を知っている高橋さんの追い上げを意識していた。ようやく優勝できてうれしい。



上地 優子 選手
使用ボール：シャドーロック
ハタ、田町、稲沢と3回とも違う会場での優勝はうれしい。平常心での投球を心掛けた。久しぶりの優勝争いを楽しめた。

【男子の部】
予選1位は大坂の堤泰三選手。9G1955と一人1900台を記録し、駒を進める。2位には東京の宮澤國彦選手。サウスポールの実力者は72ピン差で後を追う。3位には宮城の早坂友伸選手。宮澤選手から23ピン差。
準決勝では堤選手にブレーキがかかってしまう。1位通過はしたもの、優勝。
2位とは16ピン差。3位以下も僅差で続き、混戦状態。2位には準決勝684を記録し、予選16位からジャンプアップした埼玉の福島和也選手。宮澤、早坂両選手は3位と4位で決勝戦へ。
決勝戦ではスコアメイクに苦しむ選手が多くみられる中、宮澤選手が260スタートと周りを突き放し、決勝3G713、15G3178で初優勝。

第51回全日本ボウリング選手権が愛知県の稲沢グランドボウルにて11月18日・19日に開催。全国から男子20名、女子10名の黒ワツペンを目指し、633名もの選手が集まった。

男女ともハイレベルな接戦

【女子の部】
予選を1位通過したのは東京の鈴木久美子選手。第2シリーズで711を記録し、9Gトータル1934ピンで準決勝へ進んだ。続くのは歴代優勝者の地元愛知の渡辺麻央選手。27ピンの僅差で後を追う。3位には北海道の木村祐子選手が50ピン差で続いた。
準決勝では鈴木選手がスコアを伸ばせず、4位に後退。変わってトップ通過したのは12G2545とした渡辺選手。続くのは予選4位から8ピン差に詰め寄った、北海道の保木絵里選手。さらに23ピン差で沖繩の上地優子選手が続く。上位3名はいずれも歴代優勝者と実力者が顔をそろえた。

予選を1位通過したのは東京の鈴木久美子選手。第2シリーズで711を記録し、9Gトータル1934ピンで準決勝へ進んだ。続くのは歴代優勝者の地元愛知の渡辺麻央選手。27ピンの僅差で後を追う。3位には北海道の木村祐子選手が50ピン差で続いた。

は38回大会以来13年ぶりとなった。



2024年度 NBF競技会スケジュール

月 日	大会 名		開催場所
2月17・18日	第49回全日本オーバー70ダブルスボウリングフェスティバル	2人の合計年齢が大会当日満70歳以上のチームで、各連盟代表チーム「ダブルス戦」 組合せおよび合計年齢によるH/C戦	大阪府 ボウルアロー松原
4月20・21日	第51回全日本トリオボウリングフェスティバル	前年度12月までに公認登録ゲーム120ゲーム以上（新規会員は10月～12月までに30ゲーム以上）登録者による各連盟代表チーム「3人チーム戦」H/C制 （220ベース 男子80% 女子100%）	愛知県 稲沢グランドボウル
5月11・12日	第49回西日本ボウリング選手権大会	3月末までに公認登録ゲーム30ゲーム以上登録者による各連盟代表選手「シングルス戦」 男女別2部門によるスクラッチ戦	大阪府 ボウルアロー松原
5月18・19日	第49回東日本ボウリング選手権大会	3月末までに公認登録ゲーム30ゲーム以上登録者による各連盟代表選手「シングルス戦」 男女別2部門によるスクラッチ戦	北海道 ラウンドワン函館店
7月20・21日	第50回全日本シニアボウリング選手権大会	大会当日満50歳以上の各連盟代表選手「シングルス戦」・年齢H/C制（H/Cは60歳から満年齢マイナス55ピンとする。）	宮城県 コロナキャットボウル仙台
9月21・22日	第50回全日本ダブルスボウリング選手権大会	6月末までに公認登録ゲーム60ゲーム以上登録者による各連盟代表チーム「ダブルス戦」 男女別2部門によるスクラッチ戦	北海道 総合レジャーサンコーボウル
10月19・20日	2024年オールジャパンボウリングフェスティバル	6月末までに公認登録ゲーム60ゲーム以上登録者による各連盟代表チーム「ダブルス戦」H/C制および「シングルス戦」H/C制 「シングルス戦」部門はアベレージによるクラス別戦で各クラスで表彰（220ベース 男子80% 女子100%）	三重県 鈴鹿グランドボウル
11月16・17日	第52回全日本ボウリング選手権大会	9月末までに公認登録ゲーム90ゲーム以上登録者による各連盟代表選手「シングルス戦」 男女別2部門によるスクラッチ戦	愛知県 稲沢グランドボウル

《NBF各ブロックご案内》

北海道ブロック	北海道
東北ブロック	青森県 宮城県 福島県 秋田県 岩手県 山形県 新潟県
関東ブロック	長野県 山梨県 群馬県 栃木県 茨城県 埼玉県 千葉県
	東京都 神奈川県
中部ブロック	静岡県 愛知県 三重県 岐阜県 石川県 富山県 福井県

関西ブロック	大阪府 兵庫県 京都府 和歌山県 奈良県 滋賀県
中国ブロック	広島県 岡山県 島根県 鳥取県
四国ブロック	愛媛県 香川県 徳島県 高知県
九州ブロック	福岡県 長崎県 宮崎県 大分県 佐賀県 熊本県 鹿児島県 沖縄県